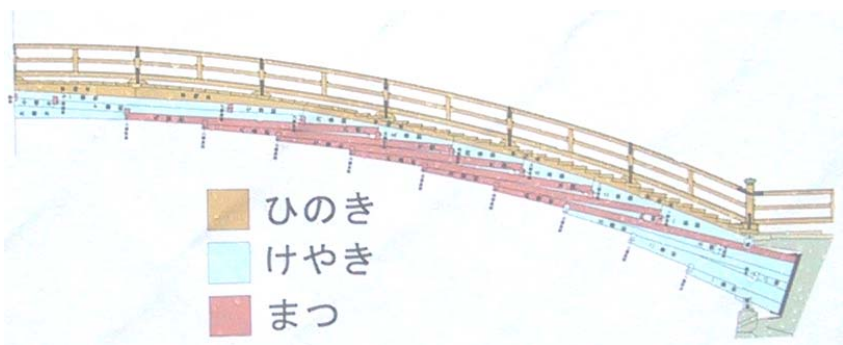


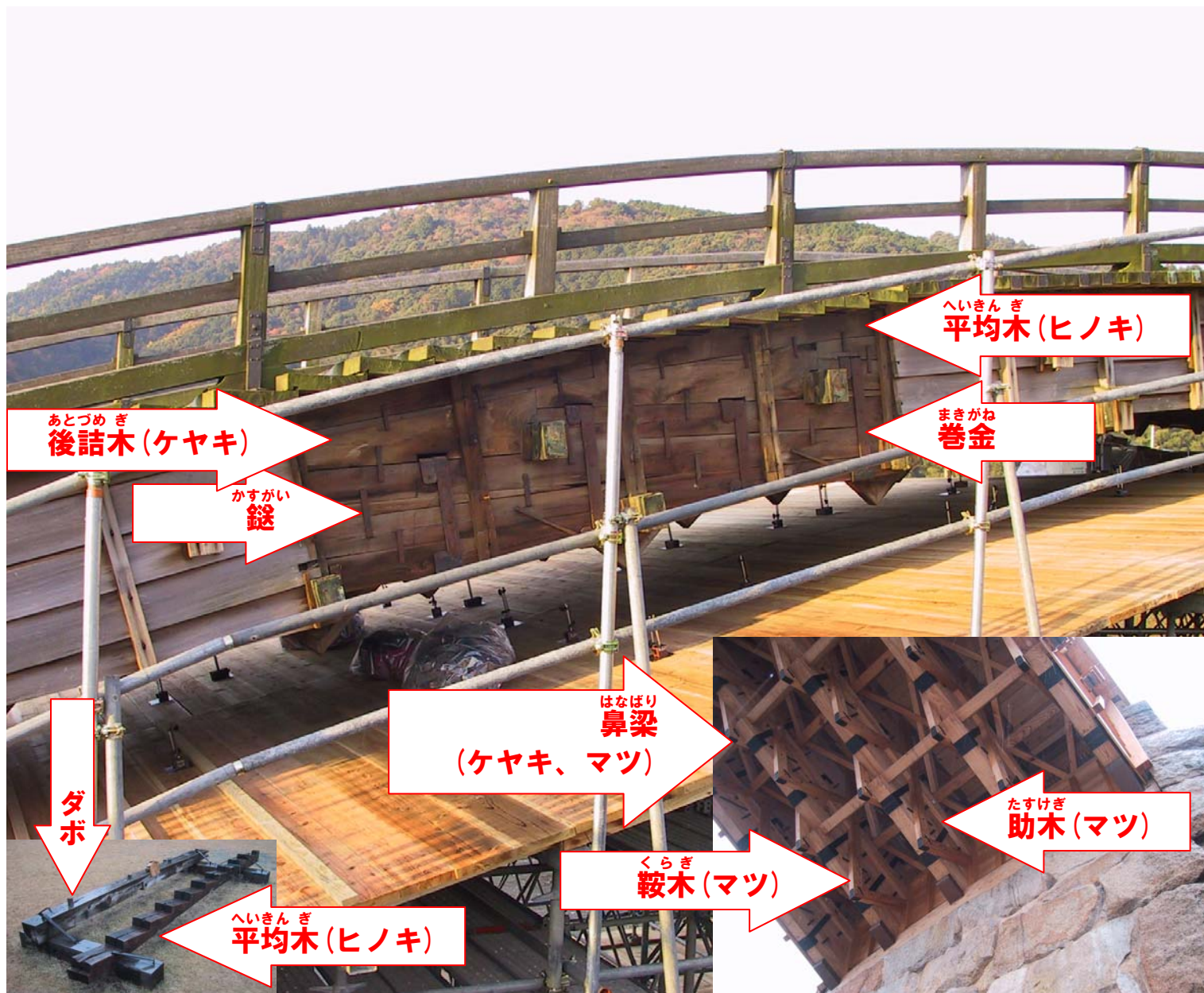
きんたいきょう 「名勝 錦帯橋」の部材



錦帯橋は山口県岩国市を流れる錦川に架かる 5 連の木橋です。
延宝元年(1673 年)に創建されてから 15 度目となる平成の架け替えが、平成 13 年から平成 16 年にかけて行われました。

寄贈：岩国市





はしげた 橋桁

ケヤキとマツを全部で 11 段に重ねた橋桁は、巻金で束ねられていました。重ねた面には滑らないようにダボが、桁側面には補強として助木と鞍木、銼が入っていました。桁の上は後詰木と平均木で形を整えていました。

(ケヤキ、マツ、ヒノキ)

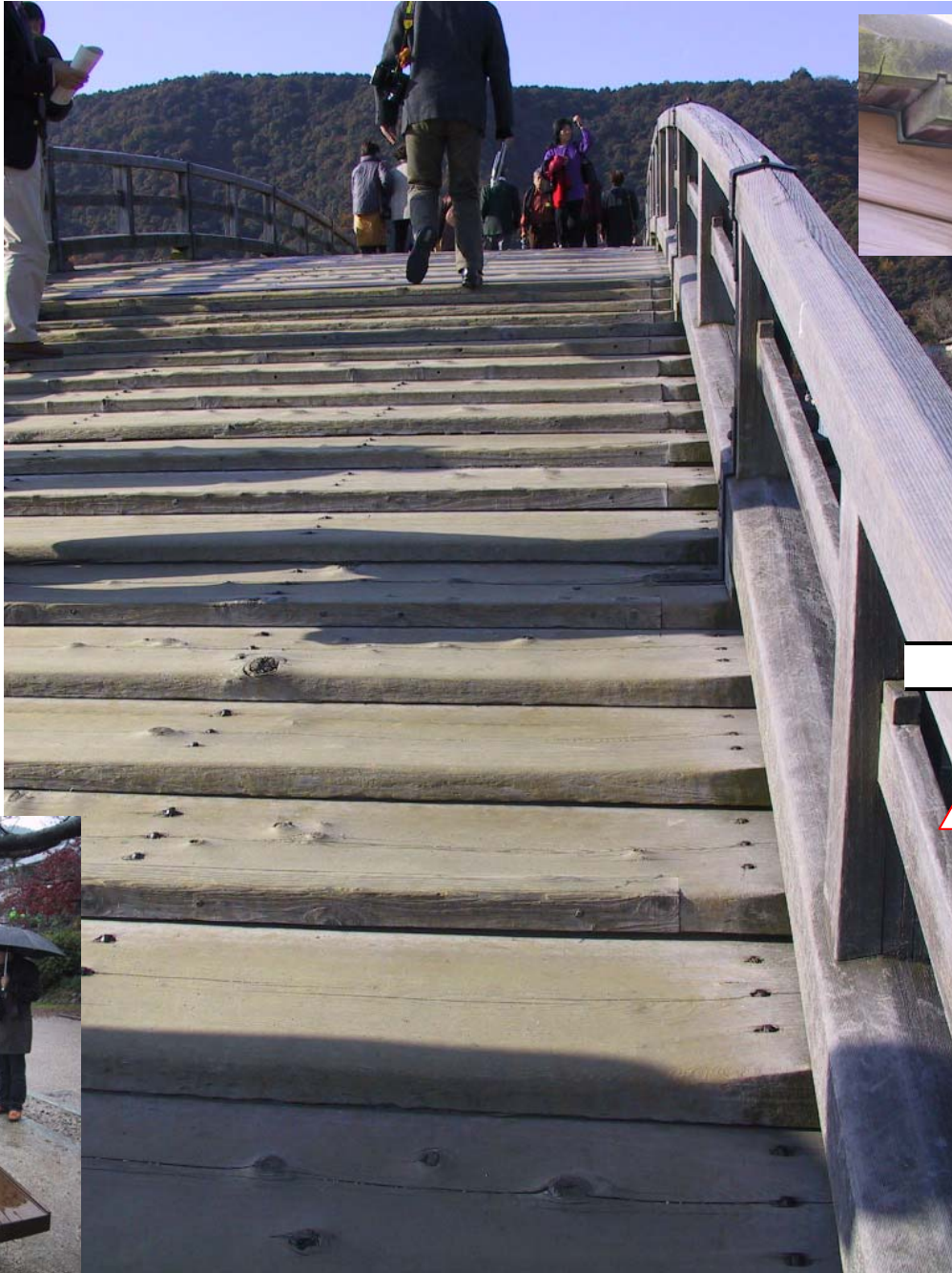


しきばり 敷梁

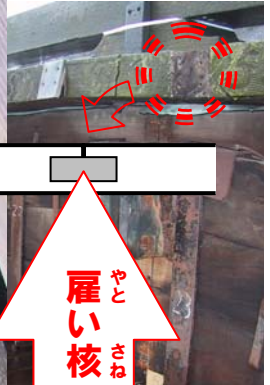
橋脚の弧に合わせて造られ、石の上に据え付けられていました。この上に 5 本の橋桁が乗っていました。

(ケヤキ)

第 3 橋(中央)橋板段板 (中央写真は第 4 橋錦見側段板、右上写真は第 3 橋横山側段板、共に 2000 年 11 月 30 日撮影。
右中段写真は第 2 橋敷板、左下写真は上流横山側に転用されたベンチ、共に 2003 年 12 月 11 日撮影。)



水返し核
さね



雇い核
さと
さね
(クリ)



きょうばん 橋 板

階段の下から張り上げられる両側 30 枚の段板は水返し核が、頂上部の敷板 54 枚は雇い核がありました。長年踏まれた表面は、柔らかい部分ほど激しく磨耗しています。

(ヒノキ)



長持ちさせる工夫

風雨を受ける木材が、濡れたままでは腐ってしまいます。橋板が屋根となり、蔀板が外壁となって橋桁を護っています。耐久性のある樹種を選ぶことや濡らさない工夫も大切ですが、流し導き早く乾かす仕組みや大事な部分を幾重にも守る仕組み、不具合を見つけてすぐに直す支援体制も大切です。



錦帯橋から学ぶべきこと

約 330 年間を経て、約 50 年ぶり 15 度目の架け替え工事を終えた錦帯橋は、我々に木材を活用する知恵と勇気を与えてくれます。

モノを伝え、遺していく方法には、
材料の耐久性を上げること以外に、
多くの人に愛されながら

手入れと工夫を続けて行く方法があること